

2026/2/24

一般社団法人日本映像ソフト協会

## 『JVA2025 年年間統計調査結果』について

当協会の業務部会マーケット調査委員会は、2025年1月～12月のビデオソフトの出荷についての統計調査を『日本映像ソフト協会統計調査報告書 Vol. 101』にまとめました。

つきましては、ここに結果の抜粋となりますが2025年の統計調査結果についてご報告いたします。

なお、本報告書は一般の方にも有料にて頒布しております。

本件のお問い合わせにつきましては、または、協会ホームページの「お問い合わせ」にアクセスしてください。

以上

## 2025年（1月～12月）の実績について

はじめに

19年ぶりに売り上げ実績が前年を上回る形となった2023年、2024年はその反動もあり前年から大幅減という結果となった。そして2025年に入っても減少トレンドが一年を通して続く形となった。その中で映像コンテンツ業界では、ビデオソフトの購入・レンタルからSVOD等配信サービスへのシフトがさらに進んだ一年となっているという状況もおさえておきたい。

1. 2025年のビデオソフトの総売上は812億8,100万円で前年比83.5%と初めて1,000億円を割った2024年からさらに下回る実績となった。上半期は423億900万円で前年同期比95.7%と前年同期をわずかに下回る程度であったが、下半期が389億7,200万円で同73.3%と前年同期を大きく下回ったことで、年間でも大幅に前年を下回る結果となった。

ビデオソフトの総売上金額をメディア別に見てみると、DVDビデオが245億2,600万円で前年比81.1%、ブルーレイ（Ultra HD ブルーレイを含む。以下同様）は567億5,700万円で前年比84.5%と、ともに前年を大きく下回る結果となった。構成比ではDVDビデオの構成比が30.2%（2024年は31.0%）、ブルーレイの構成比が69.8%（2024年は69.0%）となり、ブルーレイの構成比が前年からわずかに拡大となった。

<添付資料 表1>

2. ビデオソフト全体の売上金額を流通チャネル別の構成で見ると、販売用、特殊ルート、レンタル店用、業務用の割合は、92.6対0.2対6.2対1.0となり、販売用の割合がわずかに増加し（2024年は92.1%）、レンタル店用の割合が減少する結果となった。

<添付資料 表4>

3. 販売用全体（DVD ビデオとブルーレイの合計）の売上金額は 752 億 2,400 万円で、前年比 83.9%と前年を下回った。ブルーレイは 545 億 9,600 万円で前年比 82.8%、DVD ビデオは 206 億 4,400 万円で前年比 87.0%と共に前年を下回る結果となった。販売用全体に占めるブルーレイの売上金額の構成比は 72.6%となっており、販売用においてブルーレイが安定的に構成比を維持している。

<添付資料 表 5>

4. 販売用全体の売上金額をジャンル別に見てみると、構成比1位（53.7%）の『音楽（邦楽）』が最大構成比を維持した。前年比も105.5%と前年を上回る形での着地となった。2025年から新設された『日本のアニメーション（TV・OVA）』が構成比15.6%で第2位、『劇場版 日本のアニメーション』が構成比6.1%で第4位となった。（なお、日本のアニメ合計では構成比 21.7%となり、前年同期比は65.7%と前年を大きく下回っている。）また構成比3位（6.7%）の『日本のTVドラマ』が同75.3%、構成比5位（5.4%）の『邦画（TVドラマを除く）』が同 73.2%といずれも前年を大きく下回る結果となった。

各ジャンルの売上金額におけるブルーレイの割合は、『洋画（TVドラマを除く）』が87.1%（前年81.5%）、2025年から新設された『日本のアニメーション（TV・OVA）』が87.2%と非常に高い割合となっている。最大ジャンルの『音楽（邦楽）』も71.2%と構成比を拡大させており、『アジア(\*)のTVドラマ』を除くすべてのジャンルでブルーレイの割合が50%を超えている。

<添付資料 表 7>

5. ブルーレイの販売用の売上金額をジャンル別に見てみると、構成比 1 位（52.8%）の『音楽（邦楽）』は前年比 101.2%で前年をわずかに上回った。2025 年から新設された『日本のアニメーション（TV・OVA）』が構成比 18.8%で第 2 位、『劇場版 日本のアニメーション』が構成比 6.5%で第 3 位となった。（なお、日本のアニメ合計では構成比 25.2%となり、前年同期比は 67.2%と前年を大きく下回っている。）構成比 4 位（5.58%）の『洋画（TVドラマを除く）』が同 81.9%、構成比 5 位（5.6%）の『日本の TV ドラマ』も同 68.5%と、いずれも前年を大きく下回る結果となった。

<添付資料 表 7>

6. DVD ビデオの販売用の売上金額をジャンル別に見てみると、構成比 1 位（56.4%）の『音楽（邦楽）』が前年比 118.2%と前年を大きく上回った。一方、構成比 2 位（10.8%）の『日本の TV ドラマ』が前年比 77.7%、構成比 3 位（7.6%）の『邦画（TV ドラマを除く）』が同 82.4%と、共に前年を大きく下回る結果となった。2025 年から新設された『日本のアニメーション（TV・OVA）』は構成比 7.3%で第 4 位、『劇場版 日本のアニメーション』は構成比 5.1%で第 5 位となった。（なお、日本のアニメ合計では構成比 12.4%となり、前年同期比は 58.6%と前年を大きく下回っている。）

<添付資料 表 7>

7. レンタル店用全体（DVD ビデオとブルーレイの合計）の売上金額は 50 億 7,600 万円で、前年比 78.4%と前年を大きく下回った。売上金額全体に占めるブルーレイの割合が 30.7%となり、前年の 7.3%から大幅に拡大した。全体の 69.3%を占める DVD ビデオの売上金額は 35 億 1,900 万円で前年比は 58.7%と大きく下回っている一方、ブルーレイのレンタル店用の売上金額は 15 億 5,700 万円で前年比 329.5%と前年を大きく上回る結果となった。

<添付資料 表 5>

8. レンタル店用全体の売上をジャンル別にみると、2025年から新設された『日本のアニメーション (TV・OVA)』が構成比 38.4%で第1位となった。(なお、日本のアニメ合計では構成比 46.2%となり、前年同期比は 107.8%と前年を上回っている。)一方、構成比 2位 (17.9%) の『邦画 (TVドラマを除く)』が同 79.0%、構成比 3位 (12.4%) の『アジアのTVドラマ』が同 49.9%、構成比 4位 (11.8%) の『日本のTVドラマ』が同 89.3%、構成比 5位 (8.1%) の『洋画 (TVドラマを除く)』が同 53.8%と、いずれも前年を下回る結果となった。

<添付資料 表8>

9. 売上金額を売上数量で割って単純に求めた1枚当たりの単価を見てみると、DVDビデオの販売用の平均単価が4,077円で前年比108.2%、ブルーレイの販売用が6,884円で同103.8%となり、ともに前年から単価が上昇した。

DVDビデオの『レンタル店用』の平均単価は1,139円で前年比77.3%と大きく単価を下げたが、ブルーレイの『レンタル店用』の平均単価は2,849円で同123.4%と、こちらは大きく単価を上げる結果となった。

<添付資料 表6>

以 上

#### 追記

<本統計調査報告についての注意点>

- 本報告は、JVA 会員社が発売、販売する自社作品および他社作品の出荷段階の売上をまとめた統計である。
- 返品分は金額、数量とも調査時点において差し引いている。
- DVD とブルーレイのコンボ作品はブルーレイにカウントしている。
- 「日本の子供向け(アニメーション)」などにある“子供向け”とは、目安として9歳以下の子供を対象とした作品のこと。
- ブルーレイの売上にはUltra HD ブルーレイの売上を含む。
- 「特殊ルート」とは、雑誌やコミック、食玩などとして他商品に付帯されるものの売上のこと。